

平城京第一次太極殿の鬼門

●たしか鬼門の考え方は中国由来ではなく日本生まれらしい。奈良時代にはたしてその考え方があったかはわからないけれど、大沼浮島は東北に位置するので、平城京第一次大極殿跡と大沼を結ぶラインを引いてみた。



■平城京第一大極殿の鬼門ライン

箕島神社本殿→ 松尾寺 → 第一次大極殿 → 市庭古墳 → ヒシアゲ古墳 → 大森神社本殿 →
→ 長福寺 → 鬼の塚 → 大沼浮島（出島）※松尾寺のみ本堂の裏 5m の地点を通った





■箕嶋神社

ここ箕嶋神社は、古来より鳥の杜と呼ばれ、当初は水主神社と称していましたが、牛頭天皇、祇園社、と名称が変わり、明治三年より箕嶋神社と称するに至っています。元仁元年（1224年）、この地方（古くは宮崎荘箕島村と呼ばれていた）の領主である宮崎出羽守が祇園社（現、箕嶋神社）に神領三十石を寄進し、天文四年（1535年）、宮崎城主藤原定茲（宮崎雲秀）が改めて造営しました。「紀伊続風土記」には、「旧はわずかの小社なりしが、天文四年、宮崎城主宮崎雲秀が改めて造営す」と記されています。また、古くは有田川下流北側に位置する箕島、港町も立神社を産土神としましたが、諸村と争論があったため、立神社から独立し、箕島を含めた有田川下流北側の地域の産土神社となりました。

祭神 水主大神、素盞鳴尊、武甕槌神、経津主神、菅田別命。境内社祓戸神社に瀬織津姫。

和歌山県有田市箕島 1 1 7

■松尾寺

松尾寺は、養老2年（718）、天武天皇の皇子舎人親王が、勅命による日本書紀編纂の折、42歳の厄年であったため、日本書紀の無事完成と厄除けの願をかけて建立された日本最古の厄除霊場です。親王が松尾山に参詣修行し、ご祈願の養老2年2月初めの午の日、東の山に紫の雲たなびき（瑞雲）、千手千眼観世音菩薩が天降りご出現なされたという「松尾山縁起」により、国運隆昌・国体安穩を祈禱申し上げる勅願寺として、歴代皇室の御叡信厚く、後水尾天皇も御持仏の如意輪観音を下された由緒ある寺です。ご本尊の厄除け観音は、千の手、千の目をお持ちになる千手千眼観世音菩薩（秘仏）で、図り知ることの出来ない広大な慈悲の力を備えられ、殊に靈驗あらたかと伝わります。奈良県大和郡山市山田町 683

■平城京第一次太極殿

710年3月遷都。平城宮最大の宮殿であり、その建物は奈良時代の中頃に、一時都とした恭仁(くに)宮に移築され、山城国の国分寺金堂になった。当時、天皇の即位式や外国使節との面会など、国のもっとも重要な儀式のために使われていた。

■市庭古墳（平城天皇陵）

平城宮大極殿跡のすぐ北に隣接しており、かつては直径100メートル超の最大級の円墳とされていた。しかしその後の発掘調査で前方部が平城宮建設のさいに削平されており、本来は墳丘の全長253メートル 前方部の幅164メートル 後円部の直径147メートルの前方部を南に向けた前方後円墳であることが判明した。葺石、くびれ部分両側の造り出し、二重濠の一部分なども確認されている。同古墳と同様に平城宮建設の際に破壊された古墳としては、第2次大極殿跡の下に位置する神明野古墳（全長117m）がある。後円部の中心部分は宮内庁により平城天皇陵（806～809年即位 桓武天皇の子）に指定されている。

築造時期 / 円筒埴輪、動物埴輪などが出土している。築造時期は古墳時代中期前半（5 世紀前半）と見られている。

平城京の建設以前から存在した市庭古墳が、平安時代の人物である平城天皇のために造られた古墳でないことは明らかで陵墓の治定に否定的な意見が多い。現在の治定が正しいとするなら、平城天皇には新たな陵墓が造られず既存の古墳に追葬されたことになる。奈良市佐紀町

■ヒシアゲ古墳

ヒシアゲ古墳は、奈良県奈良市佐紀町にある古墳。形状は前方後円墳。佐紀盾列古墳群を構成する古墳の 1 つ。実際の被葬者は明らかでないが、宮内庁により「平城坂上陵（ならさかのえのみささぎ）」として第 16 代仁徳天皇皇后の磐之媛命の陵に治定されている。築造時期は **5 世紀中葉～後半** と思われる。奈良市佐紀町字ヒシゲ

■大森神社

御祭神/猿田彦命 玉依姫命

境内社（摂社・末社）/八幡社 津島社 外宮 内宮 愛宕社 八坂社 行者社 御沢社

社伝によると、天智天皇の御代（**668 ～672 年**）、布引山麓に菅田別尊を勧請したが、後**延暦三年**比叡山の僧徳珍が、此の境内に伽藍を建て、薬師如来を祀り、玉尾山長福寺と名付けた。爾来五一四年を経て、安元二年日吉山の十禅師大権現を勧請、更に元久年間白髪大明神として奉斎後、四百余年間八町四方の社地があったが、元龜天正の兵火により会い、八幡社のみを奉斎し、日吉山王より勧請の大神を現在の社地に奉遷、白髪神社と称し、産土神とし、更に猿田彦大神、玉依姫命を合祀した。明治十三年大森神社と改称し、村社に列し、同四十一年神饌幣帛料供進指定となる。元和八年山形城主最上氏が、当地に改易後、歴代の主が当社を崇敬され、延宝七年鳥居を建立、元禄六年梵鐘、神輿、燈籠を、文明十年拝殿を建立寄進された外、年々祭礼には最上氏より、十人の足輕を出し、長柄槍を捧げて、神輿渡御の警護をした。境内に釣鐘堂が現存する。九文座、平尾座、助座の宮座がある。

■長福寺

長福寺は、延暦 2 年（783 年）比叡山延暦寺の僧徳珍によって創建された天台宗の寺院です。当時は、八幡宮（現在の大森神社）の境内に薬師如来を安置して祀られており、七堂伽藍を有していました。元久元年（1204 年）に僧教道により布引のふもとに移り、さらに寛永 14 年（1637 年）僧光忠により現在地に移られました。江戸時代は、この地の領主、最上家代々の祈願所であったと言われています。この長福寺本堂の玄関は、旧最上氏大森陣屋の表玄関が移築されたと伝わっており、大森町の歴史を知る上で、現在残されている貴重な遺構です。
滋賀県東近江市大森町 1 4 8 3

■鬼の塚五輪塔

五輪塔。高さ 165cm 直径 52cm。鬼女紅葉の墓と伝えられるが詳細は不明。長野市戸隠栃原

●紅葉伝説

長野県の戸隠、鬼無里、別所温泉などに伝わる鬼女にまつわる伝説。平維茂が鬼女・紅葉と戦い、討ち取る話である。

『今昔百鬼拾遺』の「紅葉狩」では、信濃国の戸隠山に鬼がおり、平維茂によってそれが退治されたというのが共通する伝説の要素である。その鬼は女性であり、名前を紅葉であるとするものが一般に流布されている。

室町時代から江戸時代にかけて、能や浄瑠璃、歌舞伎では「紅葉狩」（もみじがり）という題名で描かれつづけ、平維茂が戸隠山におもむき、そこで出会った紅葉見物の美しい女性たち一行

に出遭うという展開を設けている。その女性たちの正体が戸隠山の鬼、鬼女・紅葉であるとする。能をもとにして作られた河竹黙阿弥による歌舞伎『紅葉狩』（1887 年）は、紅葉に相当する鬼の名を更科姫としている。

明治中期に出版された『戸隠山鬼女紅葉退治之伝』では、紅葉は会津出身の伴氏の子孫であるとされ、第六天の魔王の力を持つ鬼とされる。元は呉葉（くれは）と呼ばれていたが、後に紅葉に名を改めて都に上り、都で源経基に寵愛され一子を宿すが、戸隠の地へ流される。里の者に尊崇されるいっぽう、徒党を組んで盗賊を働き、冷泉天皇の勅諭によって派遣された平維茂の軍勢により、退治される。紅葉の一生を詳しく描いており、紅葉の出所や戸隠以前などを示している紅葉伝説はこの本の出版以後、『大語園』などその内容を典拠としたものが多い。

平 維茂/平安時代中期の武将

■大沼浮島（役の小角・弁財天）

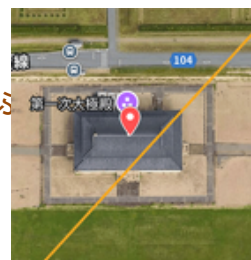
湖畔にある大沼浮嶋稲荷神社（祭神/宇迦之御魂神）の神池とされ狐の形をしている。沼には大小の葦の島が風や流れに関係なく浮遊し、江戸時代には国の数 32 あり、その動きで吉凶を占っていたとされる。沼は白竜湖とも呼ばれ弁財天が祀られている。大円寺『朝日嶽縁起』（1505 年）によると、朝日岳の麓に御手洗の「大富沼」があると記されている。

白鳳 9 年（681）役の小角が弟子の覚道を連れて出羽路に来た折、大谷川（朝日町大谷）のほとりで梵字が記された板碑が流れくるのを見つけ、川をさかのぼり、60 余りの島が浮遊する神池大沼を見つけた。湖畔に浮島稲荷大明神を祀り、弟子覚道を別当（大行院）とし朝日岳修験が行われた。739 年には行基が訪れ浮島 66 個に国の名前を付けた。建久 4 年（1193）には寒河江荘地頭となった大江広元の進言により源頼朝の祈願所になり、その後も大江家、徳川家、最上家にも祈願所として崇敬された。国指定名勝。 山形県西村山郡朝日町大沼

備考/浮島は、現在は数も減り、岸に付き動かないことが多いが、動く時は流れや風に関係なく意志があるかのように動き回り驚く。出雲族東王家の富家の人々は出雲から大和の葛城山東側に移り住んだとされる。役の小角の生誕地は奈良県御所市茅原。まさに葛木山の東に位置する。大沼を「大富沼」、大朝日岳の神を「大富権現（弁財天）」と名付けたのも役の小角だろう。役の小角が天孫族秦氏の稲荷神を祀ることはありえない。なにより伏見稲荷よりも古い歴史になってしまう。730 年に「大沼社を南西の丘に移す」記述があるので、その時に秦族がやってきて主祭神を弁財天（瀬織津姫）から稲荷神に変えたのだと思われる。徐福が連れてきた海童たち秦族は蓬莱島信仰を持つ。自由に動き回る浮島は相当に魅力的だったはず。古い祭祀線はほとんどが稲荷神社ではなく大沼の島居の立つ「出島（弁天島）」（写真）が起点となっている。



●すると、歴史ある神社仏閣がライン上に見つかった。松尾寺は「日本書紀」のために作られた寺で日本最古の厄除霊場とある。ラインは松尾寺本堂の後方 5m を通るが、これは箕嶋神社の本殿に合わせたもので、松尾寺本堂と大沼出島を結んでも大極殿建物や柵の「東北の角」を通るので間違いはない。京都御所の猿が辻同様、建物の角が鬼門の位置と考えるのではないだろうか。ただ、平城京遷都時に松尾寺はまだ創建されていない。



●箕嶋神社は、創建年不詳だが素盞鳴尊、武甕槌神、経津主神、誉田別命と物々しい戦いの神たちが勢揃いしていて裏鬼門の抑えにふさわしい。

●市庭古墳は平安時代の平城天皇の陵なのでたまたま偶然かと思ったが、市庭古墳は平城京の建設以前から存在していたことがわかっている。重要人物のお墓を鬼門に据えたのだろう。ヒシアゲ古墳も平城京以前のもの。二人の祖先霊に守ってもらえる配置。

●大森神社は延暦3年に比叡山の僧が現在地に伽藍を建てたとある。平城京の鬼門強化に違いない。そして近くにある長福寺こそが大森神社の祈祷寺となっていたとある。のちに現在地に移動している。興味深いのは、最上家が山形を出たあとの領地が近江だったとのこと。浮嶋稻荷神社は最上家の山形時代の祈祷寺にもなっていて立派な石灯籠が二基奉納されている。平城京はなくなった時代だが、浮島につながるラインなことをわかっている長福寺を庇護していたのかもしれない。とても興味深い。

●鬼の塚五輪塔は、鬼門に鬼の墓を置くのは有りだが、紅葉物語は平安時代中期の話。平城京とは関係ないかとも思ったが伝説なので時代が違う可能性もあるので記録しておく。

●平城京にとっての鬼は、安倍家やアテルイの住む蝦夷の日高見国であり、その一大聖地だった山形の朝日岳信仰は特に脅威だったに違いない。第一次大極殿はその本拠地大沼浮島を鬼門に据えている。まだこの時代は朝日岳信仰の大沼浮島は鬼だったのである。

●大沼は730年に浮島社を高台に移して稻荷神にした歴史がある。この時についに秦一族がやってきて、安倍一族の大沼は鬼をやめ秦一族が支配するようになったのではないだろうか。そして、さらに北東の日高見国に住む鬼たちから平城京を守るための拠点となったのだと思う。

●ただ、大朝日岳と大極殿を結んでも寺社は見つからなかった。奈良時代は大朝日岳よりも大沼出島に重きを置いていたのだろうか。

●第二次大極殿については、別頁にまとめます。

[追記 2015.11.25]

●ふと、もしかしたらこのラインは守りというよりも引き寄せなのではないかと思った。ということは大沼に限らず東北のいろんな聖地と同じ配置で繋がっているのかも…

まずは湯殿山とつないでみた。

すると…



■ 東院 → 第一次大極殿 → 湯殿山神社ご神体岩

■ 東院

奈良県大和郡山市山田町にある「東院」は、「松尾寺」の別院、または関連する場所と考えられます。松尾寺は日本最古の厄除け寺として知られる古刹です。

※グーグル AI 検索より 奈良県大和郡山市山田町

● 東院という寺にぶつかったが、松尾寺のすぐ近くで驚いた。検索してみると Google の AI は「松尾寺の別院と考えられる」と出たが、記事そのものはいくら探しても見つけれなかった。仕方ないので祭祀線がつながるか探してみた。すると簡単に見つかった。



■ 松尾神社→松尾寺→東院

■松尾山神社

春日造り桧皮葺の三社殿が並び、これに拝殿と神楽殿が配置されています。松尾大明神を本社、清滝権現・牛頭天皇を脇社として三社斎祀しています。

元観音堂跡と言われ、昭和 52 年に発掘された奈良時代の鎧瓦などが宝蔵殿に展示されています。
奈良県大和郡山市山田町

●大沼出島だけでなく湯殿山もつなげているということは、やはり第一次大極殿はやはり松尾寺を裏鬼門にしている。そこでもう一度、松尾寺本堂と大極殿→大沼浮島出島をつないでみた。やはり建物の東北の角ではあるが、湯殿山からのライン（紫）とずれてしまう。



●そこで、大沼出島からのラインを重なるようにしてみた。
すると…



■神霊石の大岩

本堂背後の磐座（いわくら）。

この大岩を巡って、西国三十三所松尾山石仏観音（ミニ霊場）があります。

※松尾寺公式サイトより

●グーグルのストリートビューで降りてみたら本堂と三重塔の間に巨大な磐座があった。松尾寺は出雲系の自然聖地を利用して建てられていた！



●ということは、同じ自然聖地の大沼出島とこの磐座の間に第一次大極殿は造られたということになる。年代をあらためて確認すると、平城京遷都は710年。松尾寺の創建は718年。この磐座があったので遷都時に松尾寺はなくてもよかったということだった。出雲族聖地のこの磐座と同じ出雲族聖地の大沼の間に平城京は造られていた。

●それなら、松尾山神社は大沼の神気を引き込むため神霊石と同距離にあるのではと予想できたので円型地図を使って大沼から円周ラインを松尾神社に置いてみた。すると、やはり568.592kmの同距離となった。祭祀線を調べているとこのパターンは実に多いのだ。



■松尾山神社 ←← 568.592km ←← 大沼浮島（出島） →→ 568.592km →→ 神霊石の大岩

●第一次大極殿の祭祀線の引き方を整理すると、

1. 大沼出島と松尾山神霊石の大岩の間に大極殿を建てた。
2. 大沼の神気を強く引き込むため、あるいは日本最古の厄除け寺なので蝦夷を調伏するために、大沼出島と神霊石の同距離に松尾神社を建てた。
3. 湯殿山のご神気も引き込むために、ご神体岩から大極殿を通るライン上で、さらに松尾神社と松尾寺の通るラインの交差するピンポイントに東院を建てて三尊とし直線祭祀線を成立させた。ということになる。

●おそらく朝廷側の秦氏らに大沼湖畔の浮島社が浮嶋稻荷神社に変えられ、高台に移されたと思っているが、それが730年。それまで安倍（阿部）氏ら出雲族が護ってきた大沼が朝廷側の支配となったできごとだと思う。平城京遷都は710年だから、直前に施された祭祀線といえる。とても興味深い祭祀線が見えた。

●やはり、大沼浮島の出島は、湯殿山以上にそうとう強力な鬼のパワースポットだと当時認識されていたことが改めてわかった。

（2017年に書いたものを2025年11月に再調査して再考 竜天太陽記）